

외국어과 교육과정 ()

外国語科教育課程 ()

교육부
教育部

日本語版発行 : 国際交流基金日本語国際センター
翻訳 : 朱敏子

はじめに

いま海外の日本語教育は、初中等教育において拡大しつつあります。高等教育とは異なり、年少者に対する日本語および日本に関する基礎教育を担う初中等教育においては、とりわけ、統一性や一貫性のあるシラバスやガイドラインの整備が重要となるのです。すでに本格化している国々においても、さらに充実を図るために、常にシラバスやガイドラインの最新化が行われています。その動向や成果は、これから本格的に取り組もうとする国々にとっては、きわめて重要な参考資料となるのです。国際交流基金のみならず、海外の日本語教育に携る関係者にとっても、それぞれの国や地域での教育指針を知り、的確に対応するうえで貴重な情報となっています。日本語国際センターでは、それら原本を附属図書館に収蔵して関係者に提供してまいりましたが、和訳がなかったため、原語を解する方々のみの利用に限られていました。また、ホームページ上の「国別情報」でも詳細に紹介することができなかつたのです。

その不都合を解消することによって関係者間の相互交流を図り、より一層日本語教育を拡充するための一助として、このたび7カ国（韓国、中国、インドネシア、ニュージーランド、米国*、英国、ドイツ）から9点のシラバス・ガイドラインを選び翻訳刊行（分冊）することといたしました。同時にホームページ上でも公開いたしますので、皆様はお手元で世界の日本語教育のさまざまな取組みの背景や展開を見ることができるのです。ひとくちに日本語教育といいましても、実に多様な目的や目標、方法や手段、そして課題があることがお分かりいただけるものと思います。むろん、今回の対象がすべてではなく、引き続き多様な取組みをご紹介してまいりたいと計画しております。

今回の翻訳刊行は、それぞれの原著作者・機関（別記）のご理解とご協力なしには実現いたしませんでした。日本語教育に携る者同士の共感が実を結んだものと思います。ここに、謹んで謝意を表します。

2002年（平成14年）3月

国際交流基金日本語国際センター
所長 加藤 秀俊

*米国分は、ホームページ上での公開のみ。

日本語翻訳版の刊行にあたって

本書は、韓国教育部（現教育人的資源部）が告示した小・中・高等学校の第7次教育課程（教育部告示第1997-15号）を段階別、教科別等にまとめ発行した27冊の別冊のうち、【別冊14】『外国語科教育課程』（以下『教育課程』）の「告示文」「教育課程の性格」「目次」（p.i~v）、第3章の「日本語」「日本語」（p.246~282）を翻訳し、まとめたものです。

この『教育課程』は、小・中学校の教育目的や教育目標を達成するための国家水準の教育課程であり、小・中学校で編成・運営すべき学校教育課程の一般的な共通基準を示しています。1997年12月30日に公布され2002年3月1日から施行されています。

1) 当シラバス・ガイドラインの位置づけ

このシラバスは、一般系や実業系の高等学校2年生と3年生を対象に開設する日本語科科目に適用されるもので、日本語科独自のガイドラインです。原則として他の教育段階との連携はありません。

2) 一般系や実業系高等学校における日本語シラバス・ガイドラインの変遷

一般系や実業系高等学校においては、1973年の第2次教育課程より、日本語科独自の教育課程が設けられるようになりました。しかし、第6次教育課程（以下、「第6次」）までの高等学校教育課程は、1年早く始まる中学校英語科の教育課程の構成に従い、基本語彙以外は英語科に似た内容のガイドラインでした。日本語の内容的特徴を生かした独自の教育課程が開発されるようになったのは第7次教育課程（以下、「第7次」）からです。

3) 当シラバスの特徴

教育課程の基本形式は、第2外国語科目間で統一を期しているものの、学習目標や学習内容等においては、日本語なりの特徴が生かされています。「第6次」と同じく正確さより流暢さを大事にしたファンクション中心のシラバスですが、「第6次」との違いは、性格付けのみのファンクション中心ではなく、ガイドラインの具体的な目標や学習内容のすべてがファンクション中心に構成されたことです。このような徹底したファンクション中心のシラバス・ガイドラインは、日本語科だけの特徴でもあります。また、ファンクションの項目設定においても他の言語とは違った日本語独自のファンクション項目を新しく設けています。

学習目標には、言語の4技能とインターネット検索能力、日本の生活文化への関心などが組み込まれています。「第7次」で初めて学習素材として文化項目を設け、生活文化のほかに日本人の言語行動の理解も明記しています。

とりわけ、文化理解の目標に「日本文化への関心と理解しようとする姿勢を育てること」「日本との交流に積極的な態度を養うこと」が明記されたのは日本語科だけに見られる新しい試みです。さらに、すべての学習目標で学習態度を重んじていること、基本語彙を日本の子供の使用語彙調査の結果を反映して新たに修正したこと、教材に使用する漢字の数を制限したことも従来との違いとして挙げられます。

また、評価項目にコミュニケーション活動や文化理解活動への積極性が加わったことも日本語科独自の特徴と言えます。

目 次

告示文	i
教育課程の性格	iii
外国語科教育課程()	
1. 日本語	1
2. 日本語	7
意思疎通機能の例文 [別表]	13
基本語彙表 [別表]	17
表記用漢字 [別表]	27

教育部 告示 第 1997 - 15 号

教育法、第 155 条、第 1 項に基づき、小・中・高等学校の教育課程を次のように告示する。

1997 年 12 月 30 日

教育部 長官

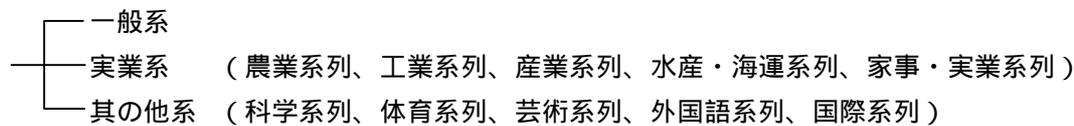
1. 小・中等学校の教育課程は [別冊 1] の通り。
2. 小学校の教育課程は [別冊 2] の通り。
3. 中学校の教育課程は [別冊 3] の通り。
4. 高等学校の教育課程は [別冊 4] の通り。
5. 国語科教育課程は [別冊 5] の通り。
6. 道徳科教育課程は [別冊 6] の通り。
7. 社会科教育課程は [別冊 7] の通り。
8. 数学科教育課程は [別冊 8] の通り。
9. 化学科教育課程は [別冊 9] の通り。
10. 実科（技術・家庭）教育課程は [別冊 10] の通り。
11. 体育科教育課程は [別冊 11] の通り。
12. 音楽科教育課程は [別冊 12] の通り。
13. 美術科教育課程は [別冊 13] の通り。
14. 外国語科の教育課程は [別冊 14] の通り。
15. 正しい生活、賢い生活、楽しい生活、私たちは 1 年生、の教育課程は [別冊 15] の通り。
16. 中学校裁量活動の選択科目の教育課程は [別冊 16] の通り。
17. 漢文、教練、教養の選択科目の教育課程は [別冊 17] の通り。
18. 特別活動の教育課程は [別冊 18] の通り。
19. 農業系列高等学校の専門教科教育課程は [別冊 19] の通り。
20. 工業系列高等学校の専門教科教育課程は [別冊 20] の通り。
21. 産業系列高等学校の専門教科教育課程は [別冊 21] の通り。
22. 水産・海運系列高等学校の専門教科教育課程は [別冊 22] の通り。
23. 家事・実業系列高等学校の専門教科教育課程は [別冊 23] の通り。
24. 科学系列高等学校の専門教科教育課程は [別冊 24] の通り。
25. 体育系列高等学校の専門教科教育課程は [別冊 25] の通り。
26. 芸術系列高等学校の専門教科教育課程は [別冊 26] の通り。
27. 外国語系列高等学校専門教科の教育課程は [別冊 27] の通り。
28. 国際系列高等学校の教育課程は [別冊 28] の通り。

附 則

1. この教育課程は学校、学年別に次の通り施行する。
 - 1) 2000年3月1日；小学校1、2年
 - 2) 2001年3月1日；小学校3、4年、中学校1年
 - 3) 2002年3月1日；小学校5、6年、中学校2年、高等学校1年
 - 4) 2003年3月1日；中学校3年、高等学校2年
 - 5) 2004年3月1日；高等学校3年

2. 教育部告示第1992-16号小学校教育課程（1992.9.30）と教育部の告示第1995-7号小学校教育課程（1995.11.1）は、2002年2月28日にて、教育部の告示第1992-11号中学校教育課程（1992.6.30）は、2003年2月28日にて、教育部の告示第1992-19号高等学校教育課程（1992.10.30）は、2004年2月29日にて廃止する。

韓国の高等学校分類



「外国語科教育課程」が適用されるのは、一般系と実業系の高等学校である。

「外国語系列高等学校専門教科教育課程」が適用されるのは、其の他系外国語系列高等学校であるが、一般系高等学校であっても学校長の裁量で適用が可能である。

国際交流基金ソウル日本文化センター調べ（2002年）

教育課程の性格

この教育課程は教育法第 155 条第 1 項に基づいて告示したもので、小・中学校の教育目的や教育目標を達成するための国家水準の教育課程であり、小・中学校で編成、運営すべき学校教育課程に共通する一般的な基準を提示したものである。

この教育課程の性格は次の通りである。

- 1) 国家水準の共通性と地域、学校、個人レベルの多様性を同時に追求する教育課程である。
- 2) 学習者の自律性や創意性を伸張するための学生中心の教育課程である。
- 3) 教育庁と学校、教員、学生、父兄が一緒に実現していく教育課程である。
- 4) 学校教育体制を教育課程中心に改善するための教育課程である。
- 5) 教育の過程や結果の質的水準を維持、管理するための教育課程である。

高校の日本語

[日本語 I]

1. 性格

日本語は、朝鮮時代の半ば頃、通訳官の養成用としての日本語教材が刊行されたことからわかるように、昔から教育的に必要性が高かった言語である。現在の韓国と日本は、政治、社会、文化的に緊密な相互協力関係にあるが、古くからの友好的な関係が壊れてしまった近代史の影響で両国民の感情の溝は未だに深い。ところが、今、世界は隣接国家間の結束が強化され、地域単位の統合または協力体制を構築し、文化交流を通してお互いを理解し、協力する国際化の動きが活発に展開されている。このような時代の動きを背景に、「日本語」科目は、韓日間のさまざまな交流活動に一翼を担える人材を育むための基礎課程として、言語の4技能を基礎的な水準から扱い、バランスの取れた意思疎通能力を養う基礎的な科目である。

日本語は経済力と情報力の面で言語の勢力が大きい代表的な言語である。現代のような情報化時代においては、印刷媒体とインターネットによる迅速な情報の収集は日本を理解することはいうまでもなく、韓国の発展のためにもとても有益である。その意味で「日本語」は情報収集の基を成す科目として、日本語への興味と関心を高め、日本語による情報収集に興味を持つように働きかける科目である。

「日本語」科目は日本文化の特徴を理解し、韓国文化を日本へ紹介することにより韓日両国民の相互理解を進め、両国間のすべての交流に肯定的でかつ積極的に参加することができる基礎的な力を養うことに重点を置く。

2. 目標

日常生活の日本語を理解し、やさしい日本語でコミュニケーションができる基礎的な能力を養う。会話能力の向上と日本語による情報検索に積極的で、日本人の日常言語生活文化と文化への関心と深い理解を深め、日本人とのコミュニケーションに能動的に参加する態度を養う。

- ・ 日常のコミュニケーションをとる上でのやさしい日本語が聞き取れ、「聞く」学習の重要性を理解し、「聞く」学習活動に積極的に参加する態度を持つ。
- ・ 日常のコミュニケーションをとる上でのやさしい日本語を日本人が聞き取れるように話し、「話す」学習の重要性を理解し、「話す」学習活動に積極的に参加する態度を持つ。
- ・ 日常のコミュニケーションをとる上でのやさしい日本語を読んでその意味がわかり、「読む」学習の重要性を理解し、「読む」学習のために自ら努力する態度を持つ。
- ・ 日常のコミュニケーションをとる上での簡単な日本語を文字を使って書き、「書く」学習の重要性を理解し、「書く」学習活動に自ら参加する態度を持つ。

- ・ インターネットを通じて日本語で情報検索するための基礎的な方法がわかり、情報検索への興味を持つ。
- ・ 日本の日常生活文化に対して深い関心を持ち、日本文化を理解しようという姿勢と日本との国際交流に積極的に参加する態度を持つ。

3. 内容

1) 意思疎通活動

意思疎通能力と会話に積極的に臨む態度を養うために、次のような言語活動を展開する。

- 聞く -

- ・ 簡単な語句や文を聞いてその意味を理解する。
- ・ 短い言葉や文章を聞いてその意味を理解する。
- ・ 意思疎通機能に関する表現を聞いてその意味を理解する。
- ・ 意思疎通機能に関する表現を聞いてその通り行動してみる。
- ・ 相手の言葉をきちんと聞く。

- 話す -

- ・ 簡単な語句や文を自然な調子で話してみる。
- ・ モデル会話の語調の通り繰り返してみる。
- ・ 意思疎通機能に関する表現を自然な調子で話してみる。
- ・ 日常の会話に関わる言語行動を理解し話してみる。
- ・ 皆の前で自分の考えを自信を持って話してみる。

- 読む -

- ・ かなと漢字で書かれた簡単な語句や文を音読してみる。
- ・ 文章を話すような調子で音読してみる。
- ・ 簡単な説明を読んでその意味と要点を理解する。
- ・ 意思疎通機能に関する表現を読んでその意味を理解する。
- ・ 映像文字による文章を読んでその意味を理解する。
- ・ インターネットを通じて日本語で簡単な情報を検索してみる。

- 書く -

- ・ かなと漢字を正しく書いてみる。
- ・ 簡単な語句や文を聞いてその通り書いてみる。
- ・ 簡単な意思疎通機能に関する表現をやさしい文章にしてみる。
- ・ 自分の考えを映像文字で伝達してみる。
- ・ 日常生活と自分の考えを記録する習慣を身につける。

2) 言語材料

意思疎通機能

次の意思疎通機能のうち、「日本語」の水準に合う言語能力を効率的に養う。より詳しい内容は [別表] に提示されている意思疎通機能及び例文を参考にする。

- ・ 挨拶機能：挨拶、紹介、安否、賞賛、激励、お祝い、感謝、慰労などの表現
- ・ 情報伝達機能：説明、情報伝達、提案、助言、慰め、謝罪、答え、推測、主張などの表現
- ・ 要求機能：質問、許可、確認、選択、説明、依頼、指示などの表現
- ・ 意思及び態度伝達機能：反論、疑問提起、否定、非難、驚き、喜怒哀楽、反問、遺憾などの表現
- ・ 談話展開機能：談話の開始、展開、転換、終結などに関連のある表現

発音

現代日本語の標準語発音に従う。

文字

文字は基本的にひらがな、カタカナ、漢字を使うが、漢字は日本の常用漢字を使い、[別表]に提示されている漢字の範囲内で使用する。ただし、固有名詞に使われる漢字は例外とし、[別表]の漢字は学習量を考慮し、理解漢字と使用漢字に分け、適切に選択して使用する。

語彙

[別表] に提示されている基本語彙を中心に 500 語程度を使用する。

文法

文法事項は [別表] に提示されている例文の該当事項を参考にする。ただし、次の文法事項は扱わないことにする。

- ・ 古語表現（例：べし、まい）
- ・ 過度に複雑な文法事項（例：使役＋受身；歌わせられる、ださせていただく）
- ・ 過度の尊敬語・謙譲語（例：さようございますか）
- ・ 過度の丁寧表現（例：ほんじつは、～であります）

文体

文語体と会話体、及び男性言葉と女性言葉、丁寧な表現を等しく使う。

文化

- ・ 日常的な生活文化を素材とし、意思疎通能力を習得するのに役立つものにする。
 - a) 個人の生活と日常的な人間関係に関するもの
 - b) 交友関係と学校生活に関するもの
 - c) 基本的な社会生活に関するもの
 - d) 趣味、娯楽、観光などの余暇に関するもの
 - e) 日本人の言語行動を理解するのに役立つもの
 - f) 日本人の日常生活を理解するのに役立つもの
 - g) わが国（韓国）の文化に関するもの

- ・ 内容構成は次の事項に留意する。
 - a) 学生の興味、必要性、知的水準などを考慮し、コミュニケーションへの意欲を誘発する内容にする。
 - b) 内容は実際の生活で使えるものにする。
 - c) 「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能が連係するように構成する。

4. 教授・学習方法

- ・ 授業の全過程を意思疎通機能が習得できる内容に構成する。
- ・ 意思疎通機能別に「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能が相互に連係するように授業を構成する。
- ・ 「聞く」「話す」の活動は別にしないで統合機能として進行できるよう授業を計画する。
- ・ 授業の全過程を通して、聴覚による日本語習得に重点をおき、会話能力習得の効率性を高める授業になるように構成する。
- ・ 創意力の向上のために学生の自律性を十分に反映できるように授業を計画する。
- ・ 学生の興味と欲求を十分に反映し、学習意欲を高めるように授業を構成する。
- ・ 日本語の教材を通して、表現形式や使い方を学習者自身が発見し、学習計画を立てていく学生中心の授業を計画する。
- ・ 学生の動作や体験を通して習得効果を高めるように授業を構成する。
- ・ 学生個人の習得水準に合う学習を展開するようにする。
- ・ グループでお互いに協力学習ができる授業を構成する。
- ・ 各種の視聴覚教材やマルチメディア教材を使って学習効果をあげる授業を構成する。
- ・ 実際の場面の体験を通して意思疎通機能の適応力を養う。
- ・ 「聞く」指導は反復練習を通して多くの学生が理解できるようにする。
- ・ 文字単位の発音よりは文章全体のイントネーションを重視する。
- ・ 「話す」指導は教師と学生の間だけではなく、学生同士の会話を活性化し、個人の会話量をふやすようにする。
- ・ 「読む」指導は文章全体の意味を要約する能力を養うように指導する。
- ・ 「書く」指導は簡単な文を書くことを中心に指導する。
- ・ 学生の学習意欲を高めるために、即座に訂正するのを避ける。
- ・ 目標と内容に従い、日本語で授業をする。
- ・ 個別学習や自律学習ができるように個人に合わせた教材を積極的に活用する。
- ・ 教科用図書の内容は学生の能力と地域環境及び状況に合わせて再構成して指導することができる。
- ・ 日本人の行動様式への理解を深めることのできる映像場面を積極的に活用する。

5. 評価

1) 評価指針

日常生活で使われる日本語の意思疎通機能を中心に、言語の4技能すべてを評価し、「話す」「聞く」に重点を置いて要点を把握する能力と能動的な態度などを評価する。

2) 評価内容

- 聞く -

- ・ 簡単な語句や文章を聞いてその意味を理解する能力
- ・ 短い言葉と文章を聞いてその意味を理解する能力
- ・ 意思疎通機能に関する表現を聞いてその意味を理解する能力
- ・ 意思疎通機能に関する表現を聞いてその通り行動できる能力
- ・ 相手の言葉をきちんとした態度で聞く姿勢

- 話す -

- ・ 簡単な語句や文を自然な調子で話す能力
- ・ 意思疎通機能に関する表現を自然な調子で話す能力
- ・ 日常会話に関連する言語行動を理解して話す能力
- ・ 皆の前で自分の考えを自信を持って話す能力
- ・ 日本語の会話に積極的に参加する態度

- 読む -

- ・ かなと漢字で書かれた簡単な語句や文を自然な調子で音読する能力
- ・ 印刷文字と映像文字を話すような調子で音読する能力
- ・ 簡単な文章を読んでその意味と要点を理解する能力
- ・ 意思疎通機能に関する表現を読んでその意味を理解する能力
- ・ 映像文字の文章を読んでその意味を理解する能力
- ・ 日本語による情報検索の基礎的な能力

- 書く -

- ・ かなと漢字を正しく書く能力
- ・ 簡単な語句や文章を聞いて書く能力
- ・ 簡単な意思疎通機能に関する表現を文章に書く能力
- ・ 自分の考えを映像文字で伝達する能力
- ・ 日常生活と自分の考えを記録する習慣

3) 評価方法

- ・ 学生を序列化する評価よりは学習の診断のための評価をするようにする。
- ・ 客観性、妥当性、信頼性を備えた評価をするようにする。
- ・ 評価目標と内容に従い分離評価と統合評価を実施するが、特に「話す」、「聞く」を中心にした統合評価に比重を置くようにする。
- ・ 「話す」評価においては筆記の評価を避け、面接に比重を置いて意思疎通能力を効果的に評価するようにする。
- ・ 意思疎通の活動と文化を理解することに対する積極性を評価するようにする。
- ・ 日本語による情報検索及び通信のような言語能力の応用力を評価に反映するようにする。
- ・ すべての評価の結果は質的な結果と量的な結果を分析して、次の段階の学習及び個別学習指導に反映するようにする。

[日本語Ⅱ]

1. 性格

日本語は、朝鮮時代の半ば頃、通訳官の養成用としての日本語教材が刊行されたことからわかるように、昔から教育的に必要性が高かった言語である。現在の韓国と日本は、政治、社会、文化的に緊密な相互協力関係にあるが、古くからの友好的な関係が壊れてしまった近代史の影響で両国民の感情の溝は未だに深い。ところが、今、世界は隣接国家間の結束が強化され、地域単位の統合または協力体制を構築し、文化交流を通してお互いを理解し、協力する国際化の動きが活発に展開されている。このような時代の動きを背景に、「日本語」は日本人の行動様式と日本の文化を理解し、韓日間のさまざまな交流活動に一翼を担える人材を育むための科目であり、「日本語」をより進めた課程で、「日本語」より多様で高い水準の意思疎通能力を養う課程である。

日本語は経済力と情報力の面で言語の勢力が大きい代表的な言語である。現代のような情報化時代においては、印刷媒体とインターネットによる迅速な情報の収集は日本を理解することはいうまでもなく、韓国の発展のためにもとても有益である。「日本語」は情報収集能力の基礎を確立し、日本語に対する興味を高め、日本語による情報の収集と通信に関心を持つように働きかける科目である。

「日本語」科目は日本語を通して日本文化の特徴を理解し、韓国文化を日本へ紹介することにより韓日両国民の相互理解を深め、さらに国際関係の理解を基に政治、経済、社会、文化分野の韓日交流に能動的でかつ積極的に参加する態度を身につけることに重点を置く。

2. 目標

日常生活で使われる日本語を理解して、日本語で意思疎通し、情報が検索できる能力を養い、日本語学習の必要性を理解して、日本語による意思疎通能力と情報検索能力の向上に積極的で、日本の言語と文化に対する関心と理解を深め、国際交流に能動的に参加する態度を持つ。

- 1) 日常のコミュニケーションをとる上で起こりうる騒音のある状況でも日本語が聞き取れ、「聞く」能力の重要性を理解し、「聞く」学習活動に積極的に参加する態度を持つ。
- 2) 日常のコミュニケーションをとる上で、日本人が聞いて分かるように自然な調子で日本語を話すことができ、「話す」学習の重要性を理解し、「話す」学習活動に積極的に参加する態度を持つ。
- 3) 日常のコミュニケーションをとる際によく使われている日本語を読んで理解し、「読む」学習の重要性を理解し、「読む」学習のため自ら努力する態度を持つ。
- 4) 日常のコミュニケーションをとる際によく使われている日本語を書くことができ、「書く」学習の重要性を理解し、「書く」活動に能動的に参加する態度を持つ。
- 5) インターネットを通して日本語による情報検索方法を理解し、情報収集と通信に能動的な態度を持つ。
- 6) 日本文化に深い関心を持ち、日本人の行動様式を理解し、日本との国際交流に能動的に参加する態度を持つ。

3. 内容

1) 意思疎通活動

日本語による全般的な意思疎通機能を育成し、会話に参加する積極的態度や日本文化への関心を高めるために、次の通りの意思疎通活動を展開する。

- 聞く -

- ・ 長い言葉や文章を聞いてその要点を理解する。
- ・ 会話の場面を見てその意味を理解する。
- ・ 意思疎通機能に関する表現を聞いてその意味を理解する。
- ・ 意思疎通機能に関する表現を聞いてその通り行動してみる。
- ・ 報道を聞いて重要な内容を理解する。
- ・ 相手の言葉を聞いてその意図を理解する。
- ・ 騒音がある実際の場面の話を聞いてその意味を理解する。

- 話す -

- ・ モデル会話の場面に従い話してみる。
- ・ 意思疎通機能に関する表現を話してみる。
- ・ 自分の考えを論理的に話してみる。
- ・ 皆の前で自分の考えを話してみる。
- ・ 皆と一つの主題について討論してみる。
- ・ 日本人の言語行動を理解し話してみる。

- 読む -

- ・ 文字と発音の関係を理解し話すような調子で音読する。
- ・ 長い文章を読んでその要点を理解する。
- ・ 意思疎通機能に関する表現を読んでその意味を理解する。
- ・ 文語体と口語体の文章を読んでその意味を理解する。
- ・ インターネットを通じて日本語の情報を検索してその意味を理解する。
- ・ 日本文化に関する文章を読んでその意味を理解する。

- 書く -

- ・ 意思疎通機能に関する表現を短い文章で書いてみる。
- ・ 実用文を様式に従って作成してみる。
- ・ 自分の考えを映像文字を使って伝達してみる。
- ・ 日常生活と自分の考えを日本語で書いてみる。
- ・ 文語体と口語体の特徴を理解し書いてみる。

2) 言語材料

意思疎通機能

- ・ 「日本語」に提示されているもののうち、「日本語」で扱わない意思疎通機能（不必要、申し出、義務と禁止、保留および回避、遺憾等）を追加して扱い、「日本語」で使用された機能と例文ももう一度使用できる。
- ・ [別表]の例文に提示されていないものも追加して使用できる。

発音

「日本語」に準拠。

文字

「日本語」に準拠。

語彙

[別表]に提示された基本語彙を中心として、「日本語」で履修した語彙を含め900語程度を使用する。

文法

「日本語」に準拠。

文体

文語体と会話体、男性言葉と女性言葉、丁寧な表現と縮約表現

文化

- ・ 主に日常生活と代表的な文化を素材にして、意思疎通能力の習得に役立つものにする。
 - a) 意思表示に関するもの
 - b) 人間関係と学校生活に関するもの
 - c) 社会生活と国家に関するもの
 - d) 趣味・娯楽・観光など余暇に関するもの
 - e) 日本人の生活文化を理解するのに役立つもの
 - f) 日本の文化と環境を理解するのに役立つもの
 - g) わが国（韓国）の文化に関するもの
- ・ 内容構成は次の事項に留意する。
 - a) 学生の興味、必要性、知的水準などを考慮しコミュニケーションへの意欲を誘発する内容にする。
 - b) 内容は実際の生活で使えるものにする。
 - c) 「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能が関係するように構成する。

4. 教授・学習方法

- ・ 授業の全過程を意思疎通機能が習得できる内容に構成する。
- ・ 意思疎通機能別に「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能が相互に連係するように授業を構成する。
- ・ 「聞く」「話す」活動は別にしないで統合機能として進行できるよう授業を計画する。
- ・ 授業の全過程を通して、聴覚による日本語習得に重点をおき、会話能力習得の効率を高める授業になるように構成する。
- ・ 創意力の向上のために学生の自律性が十分に反映できるように授業を計画する。
- ・ 学生の興味と欲求を十分に反映し、学習意欲を高めるように授業を構成する。
- ・ 日本語の表現形式と使用上の特徴を学習者自身が発見し、学習計画を立てていく学生中心の授業を計画する。
- ・ 学生の動作や体験を通して習得効果を高めるように授業を構成する。
- ・ 学生個人の習得水準に合う学習を展開するようにする。
- ・ グループでお互いに協力学習ができる授業を構成する。
- ・ 各種の視聴覚教材やマルチメディア教材を使って学習効果をあげる授業を構成する。
- ・ 実際の場面の体験を通して意思疎通機能の適応力を養う。
- ・ 長い話を「聞く」指導は繰り返し聞くことを通して多くの学生が意味を理解できるようにする。
- ・ 部分的な発音より文章全体のイントネーションを重視するように指導する。
- ・ 「話す」指導は学生同士の会話を活性化し、学生個人の会話量をふやすようにする。
- ・ 「読む」指導は文章全体の意味を要約する能力を養うように指導する。
- ・ 「書く」指導は簡単な文を書くことを中心に指導する。
- ・ 学生の学習意欲を高めるために、即座に訂正するのは避けるようにする。
- ・ 授業の全過程をできるだけ日本語で行うようにする。
- ・ 個別学習や自律学習ができるように個人に合わせた教材を積極的に活用する。
- ・ 教科用図書の内容は学生の能力と地域環境及び状況に合わせて再構成して指導することができる。
- ・ 日本人の行動様式に対する理解を深めることのできる場面を活用できるように授業を構成する。
- ・ 習得した日本語の能力を活用し情報検索やコンピューター通信などを直接体験することによって、問題解決の達成感を味わえるようにする。

5. 評価

1) 評価指針

日常生活で使われる意思疎通機能を中心に授業の全過程を評価の対象とする。言語の4技能すべてを評価し、「話す」「聞く」に重点を置き、流暢性を中心に日本語を実際に使う能力を評価する。

2) 評価内容

- 聞く -

- ・ 長い言葉や文章を聞いてその要点を把握する能力。
- ・ 会話の場面をみてその意味を把握する能力。
- ・ 意思疎通機能に関する表現を聞いてその意味を把握する能力。
- ・ 意思疎通機能に関する表現を聞いてその通り行動する能力。
- ・ 報道を聞いて重要な内容を把握する能力。
- ・ 相手の話を聞いてその意図を把握する能力。

- 話す -

- ・ お祝い、賞賛、激励、慰労などの挨拶表現を話す能力。
- ・ 意思疎通機能に関する表現を話す能力。
- ・ 自分の考えを論理的に話す能力。
- ・ 皆の前で自分の考えを話す能力。
- ・ 皆と一つのテーマについて討論する能力。
- ・ 日本人の言語行動の特徴を理解し話す能力。

- 読む -

- ・ 文章を話すような調子で音読する能力。
- ・ 長い文章を読んでその要点を把握する能力。
- ・ 意思疎通機能に関する表現を読んでその意味を把握する能力。
- ・ 文語体や会話体の文章を読んでその意味を把握する能力。
- ・ インターネットを通して日本語の情報を検索しその意味を把握する能力。
- ・ 日本文化に関する文章を読んでその意味を把握する能力。

- 書く -

- ・ 意思疎通機能に関する表現を使って短い文章を書く能力。
- ・ 簡単な実用文を様式に従い作成する能力。
- ・ 自分の考えを映像文字を使って伝達する能力。
- ・ 日常生活や自分の考えを日本語で書く能力。
- ・ 文語体と会話体の特徴を区別する能力。

3) 評価方法

- ・ 学生を序列化する評価よりは学習の診断のための評価をするようにする。
- ・ 客観性、妥当性、信頼性を備えた評価をするようにする。
- ・ 評価目標と内容に従い分離評価と統合評価を実施するが、特に「話す」、「聞く」を中心にした統合評価に比重を置くようにする。
- ・ 「話す」評価においては筆記の評価を避け、面接に比重を置いて意思疎通能力を効果的に評価するようにする。
- ・ 意思疎通の活動と文化を理解することに対する積極性を評価するようにする。
- ・ 日本語による情報検索及び通信のような言語能力の応用力を評価に反映するようにする。
- ・ すべての評価の結果は質的な結果と量的な結果を分析して、次の段階の学習及び個別学習指導に反映するようにする。

意思疎通機能の例文 [別表 I]

次に提示するものは高等学校日本語教育課程で優先的に履修することを奨励する意思疎通機能の項目と例文である。機能項目は大きく、挨拶機能、情報伝達機能、意思・態度伝達機能、要求機能、談話展開機能に分け、各項目に下位項目を設けた。ここに明記されていない機能も必要に応じて追加することができる。

次の例文は高等学校日本語教育課程に必要な文章構造、文章の種類、その他語法に関する事項を教えるときの参考にできるように意思疎通機能別に提示したものである。ここに提示されていない文章も必要に応じて含めることができる。

1. 挨拶機能

1) 日常の挨拶

- ・ 出会い おはようございます。
 こんにちは。
 こんばんは。
 おひさしぶりですね。
- ・ 別れ さようなら。
 おやすみなさい。
 お気をつけて。
 失礼します。
 じゃ、また。
- ・ 自己紹介 南山高校のキムです。
 私、韓国のイと申します。
- ・ 紹介 田中さん、友達のパクさんです。
 こちらは、東京高校の田中さんです。
- ・ 初対面の挨拶 はじめまして。キムです。どうぞよろしく。

- 2) 安否 お元気ですか。
- 3) 賞賛 キムさんは歌がお上手ですね。
 よくできました。
- 4) 激励 がんばってください。
- 5) お祝い たんじょうび、おめでとうございます。

- 6) 感謝 ありがとうございます。
 おかげさまで。
 先日はどうもありがとうございました。
 いろいろお世話になりました。
- 7) 謝罪 おそくなってすみません。
 おそれいりますが、...
- 8) 慰労 お気の毒に。
 おだいじに。

2. 情報伝達機能

1) 説明

- ・案内 ここは図書館です。
- ・報告 きのうは学校で野球をしました。
- ・事情・都合 水曜日は都合が悪いです。
- ・行動 日曜日には映画を見たりテニスをしたりしています。
 テープを聞きながら会話を練習しています。
- ・状態 少しむずかしいですが、たのしいです。
- ・症状 おなかが痛いんです。
- ・予定 大学で日本語を専攻する予定です。
- ・時間 バスで30分ぐらいかかります。
- ・行為の完了 会議は今始まったところです。
- ・位置 学校のとなりに郵便局があります。
 電話は階段の近くにあります。
- ・対比 見ることは好きですが、やることはあまり好きではありません。
- ・事情 急に体の具合が悪くなってしまいました。
- ・理由 かぜをひいたので病院へ行きます。

2) 情報伝達

- ・伝聞 田中さんも来るんだそうです。
 今日はおそくなると言っていました。
- ・希望・意向 ワープロを習おうと思っています。
 できるだけ行ってみるつもりです。
 田中さんに会いたいですね。

- 3) 提案 先生に相談してみるのはいかがでしょうか。
- 4) 助言 早く帰ったほうがいいですよ。
日光にしたらどうですか。
電車のほうがバスより速いと思います。
- 5) 慰め だいじょうぶだから、心配する必要はありませんよ。
- 6) 不必要 そんなに考えることはありませんよ。
- 7) 申し出 先生、それお持ちしましょうか。
- 8) 答え
・承諾 はい、わかりました。
・拒絶 いいです。
もうけっこうです。
あいにく5時に約束があるんです。
- 9) 推測 田中さんは来ないかもしれません。
雨が降りそうもないですね。
- 10) 意思表示 その問題はむずかしいんじゃないでしょうか。
その問題はむずかしすぎると思います。

3. 意思・態度伝達の機能

- 1) 反論、疑問提議 広いことは広いですが、すこしきたないですね。
こちらのほうがいいと思いますけどね。
- 2) 否定、非難 そんなことはないですよ。
- 3) 態度保留、判定回避 来るとは思うんですが。
- 4) 驚き、意外な気持ち 8月なのに、わりにすずしいですね。
1つしかないんですか。
- 5) 喜怒哀楽 おあいできてうれしいです。
きのうの映画は、とてもおもしろかったです。
- 6) 反問 大阪へですか。
- 7) 遺憾 せっかく作ったのにもったいないですね。

4. 要求機能

- 1) 質問 ゆうびんきょくは、どこですか。
- 2) 許可 えんぴつで書いてもいいですか。

基本語彙表〔別表Ⅱ〕

- ・ この表に提示されている基本語彙の使用を奨励する。
- ・ 活用する言葉は基本形を提示した。言葉は仮名で表記してあるが、外来語の場合はカタカナで表記した。
- ・ 意味の区別が必要な場合は、括弧の中に漢字を書いた。(漢字は表記用漢字〔別表Ⅰ〕から使用した)
- ・ 助詞、助動詞、接辞類も教育上の便宜を図るため、基本語彙の項目に入れた。
助詞、助動詞、助数詞には‘～’印を、接頭語、接尾語には‘-’印をつけた。
- ・ 同じ言葉が品詞または発音上、違う形をとっていても同じ項目として扱った。
- ・ 二つ以上の品詞として使われている項目には‘[]’印をつけた。
- ・ < > () 中の漢字は、表記用でなく、意味を区別するために表記したものである。
- ・ < > 中の漢字は〔別表Ⅰ〕の表記用漢字にない漢字を示す。
- ・ 人名、地名、施設名などの固有名詞は提示していない。
- ・ 数詞と時をあらわす名詞は‘いち’、‘ひとつ’、‘ついたち’、‘日曜日’などのように、最初の名称だけを提示した。

<あ>

ああ	あいさつ	あいだ(間)
あう(合)	あう(会)	あおい(青)
あかい(赤)	あがる(上)	あかるい(明)
あき(秋)	あく(開)	アクセス
あける(開)	あける(明)	あげる(上)
あさ(朝)	あさって	あし(足)
あじ(味)	あした	あそこ
あそぶ	あたたかい	あたま
あたらしい	あちら/あっち	あつい(暑)
あつい(厚)	あつい(熱)	あつまる
あと	あなた	あに
あね	[あの]	あぶない
あまい	[あまり]	あめ(雨)
あらう	ありがとう(ございます)	ある(有)
ある<或>	あるく	[あれ]

あんな	あんない	
<い>		
いい / よい	いいえ / いえ	E・メール
いう / ゆう	いえ	いきる
いく / ゆく	いくつ	いくら
いけない	いしゃ	いす
いそがしい	いそぐ	いた (板)
いたい	いたす	いただく
いち (一)	いつ	いっしょ
いっしょうけんめい	いっぱい	いつも
いと (糸)	いぬ	[いま]
いみ (意味)	いもうと	いや <嫌>
いや <否>	いらっしゃる	いる (居)
いれる	いろ	いろいろ
インターネット		
<う>		
~う / よう	うえ (上)	うかがう
うける	うごく	うしろ
うすい	うそ	うた
うたう	うち	うつ
うつくしい	うつす (写)	うつる (移)
うで	うまい	うまれる
うみ	うら	うる
うるさい	うれしい	うんてん
うんどう		
<え>		
え (絵)	えいが	えいせいほうそう
ええ	えき (駅)	えらぶ
えん (円)	えんぴつ	
<お>		
お / おん -	おいしい	おおい
おおきい	おかあさん / さま	おかしい
おきる	おく (置)	おくさま
おくる (送)	おくる <贈>	おくれる
おこる (起)	おじいさん / じいさん	おしえる
おす <押>	おそい	おたく (宅)
おちゃ	おちる	おっしゃる
おと	おとうさん / さま	おとうと

おとこ	おとす	おととい
おとな	おなか	おなじ
おばあさん / ばあさん	おはよう (ございます)	おぼえる
おめでとう (ございます)	おもい (重)	おもう
おもしろい	おやすみ (なさい)	およぐ
おりる	おる	おわる
おんがく	おんな	
<か>		
~か	~が	がいこく
がいこくご	かいしゃ	かいもの
かいわ	かう (買)	かえる
かお	かかる	かく (書)
かくせい	かける <掛>	かさ
かじ (火事)	かしゅ	かす (貸)
かぜ (風)	かぜ <風邪>	かぞえる
かぞく	かた (方)	かた <肩>
かたい	かたかな	かたち
かつ (勝)	~がつ (月)	がっこう
かならず	かね	かのじょ
かばん	かべ	かみ (紙)
かみ <髪>	かむ	カメラ
~かも	かゆい	かよう
~から	からい	カラオケ
からだ	かりる	かるい
かれ	かわ (川)	かわいい
かわる	かんがえる	かんじ (漢字)
かんとん	がんばる	
<き>		
き (木)	き (気)	きいろい
きえる	きく (聞)	きこえる
きせつ	きた	きたない
きって	きつと	きつぷ
きのう	きみ	きめる
きもち	きもの	きゃく (客)
きゅう (急)	ぎゅうにゅう	きょう
きょうしつ	きょうだい	きょねん
きらい	きる (着)	きる (切)
きれい	ぎんこう	

<く>

くうき	くうこう	くすり
くださる	くだもの	くち
くつ	くに	くばる
くび	くもる	くらい(暗)
~くらい/ぐらい	くらべる	くる
くるしい	くるま	くれる
くわしい	-くん(君)	

<け>

けいざい	けいたいでんわ	ゲーム
けが	けさ	けしき
けす	-げつ	けっこう
けっこん(結婚)	~けど/けれど	ける
けれども	げんかん	げんき
けんきゅう		

<こ>

こ(子)	ご(語)	ご-
こい<濃>	こうえん(公園)	こうこう(高校)
こうじょう	こえ	コーヒー
こくばん	ここ	ごご
こころ	ごぜん	こたえる
こちら/こっち	コップ	こと
ことし	ことば	こども
この	ごはん	コピー
こまかい	こまる	コミュニケーション
こむ	ごめん	これ
これから	~ころ/ごろ	こわい
こんげつ	こんしゅう	こんど
こな	こんにちは	こんばんは
コンピューター		

<さ>

-さい<歳>	さがす	さかな
さがる	さき	さく<咲>
~させる/せる	~さつ(冊)	サッカー
ざっし	さとう	さびしい
-さま/さん	さむい	さようなら/*さよなら
さら	ざんねん	さんぽ

<し>

~し	~じ(時)	じ(字)
しお(塩)	~しか	しかし
しかる<叱>	じかん	しけん
しごと	じしょ	じしん<地震>
しずか	しぜん	した(下)
したく	しっかり	しっぱい
しつもん	しつれい	じてんしゃ
じどうしゃ	じどうはんばい	しぬ
しばらく	じぶん	しま
しまう	しまる	しめる(閉)
しめる<締>	しゃしん	シャツ
ジャズ	じゃま	じゆう
- しゅうかん(週間)	じゅうしょ	じゅぎょう
しゅっぱつ	しょうかい	しょうがつ
じょうず	しょくじ	しょくどう
しらべる	しる	しろい
- じん(人)	しんせつ	しんぱい
しんぶん		

<す>

すう(吸)	スーパー	スカート
すき(好)	すぎる	すく(空)
すぐ(に)	すくない	すこし
すずしい	すすむ	すっきり
ずっと	すっぱい	すてる
すばらしい	スポーツ	すみません
すむ(住)	すもう	する
すわる	ズボン	

<せ>

せい/せ(背)	せいかつ	せいと
せかい	せき(席)	せつめい
せなか	ぜひ	せまい
せわ	せんせい	ぜんぜん

<そ>

そう	そうじ	そうして/そして
~そうだ	そうだん	そこ
そこ(底)	そつぎょう	そちら/そっち
そと	その	そば(側)

そら	それ	それから
それでは	そんな	
<た>		
～た	～だ / です / でしょう	～たい
だいがく	だいじょうぶ	たいせつ
だいたい	たいてい	だいぶ
たいへん	たかい	～たがる
たくさん	タクシー	～だけ
たす	だす	たすける
たずねる	ただしい	- たち
たつ	たてもの	たてる
たとえば	たね	たのしい
たのむ	タバコ	たぶん
たべもの	たべる	たまご
ため	だめ	～たら
～たり / だり	だれ	たんじょうび
だんだん		
<ち>		
ち(血)	ちいさい	ちかい
ちがう	ちかてつ	ちから
ちず	ちち(父)	ちょうど
[ちよっと]		
<つ>		
ついたち	つうしん	つかう
つかれる	つき	[つぎ]
つく(付)	つく(着)	つく(点)
つく(就)	つくえ	つくる
つける	つごう	つたえる
つづく	つとめる	つまらない
つめ<爪>	つめたい	つもり
つよい	つれる	
<て>		
て(手)	～て / で	～で
データー	テーブル	でかける
てがみ	できる	てつだう
デパート	～ても / でも	～でも
でる	テレビ	てん(点)
てんき	でんき	でんしゃ

でんわ		
<と>		
と(戸)	~と	-ど(度)
ドア	どう	とうがらし
どうぞ	どうも	とおい
とおる	とき	とけい
どこ	ところ	とし
としょかん	どちら/どっち	とても
どなた	となり	どの
とぶ	とまる(泊)	ともだち
とり(鳥)	とる(取)	どれ
どんな		
<な>		
ない(無)	~ない	なおす
なおる	なか	ながい
なかなか	~ながら	ながれる
なく(泣、鳴)	なげる	なさる
なぜ	なつ	なつやすみ
~など	なに/なん	なまえ
ならう	ならぶ(並)	ならべる
なる(成)		
<に>		
~に	にいさん/おにいさん	におい
にぎやか	にく	にし
-にち	にちようび	につき
にもつ	ニュース	にわ
にんぎょう		
<ぬ>		
ぬう	ぬぐ	ぬる
<ね>		
~ね	ねえさん/おねえさん	ねがう
ネクタイ	ねこ	ねだん
ねつ	ねる(寝)	ねん(年)
<の>		
~の	ノート	のこる
~ので	のど	~のに
のぼる	のむ	のる

<は>

～は	は(葉)	は(齒)
～ば	はい	はいる
はかる	はく<掃>	はく<履>
はこ	はこぶ	はさみ
はし(橋)	はし<箸>	はし<端>
はじまる	はじめて	はじめる
はしる	バス	パソコン
はたけ	はたらく	はっきり
はな(花)	はな(鼻)	はなし
はなす(話)	はなび	はは(母)
はやい(早)	はやい(速)	はらう
はる(春)	はれる(晴)	ばん(晩)
パン	ハンカチ	[はんたい]

<ひ>

ひ(日)	ひ(火)	ひ(灯)
ひがし	ひく(引)	ひく<弾>
ひくい	ひこうき	ひざ
ひだり	ひつよう	ひと
ひとつ	ひま	びょういん
びょうき	ひらがな	ひらく
ひる(昼)	ひろい	ひろう

<ふ>

ファン	ふえる	ふかい
ふく<吹>	ふく<拭>	ふつう
ふとい	ふね	ふべん
ふむ	ふゆ	ふる(降)
ふるい	ふる	ふん/ぶん(分)
ぶんか		

<へ>

～へ	へた	へや
べんきょう	へんじ	べんとう
べんり		

<ほ>

ほう	ほうし	ホーム・ページ
ほか	ほく	ポケベル
ほし	ほしい	ほそい
～ほど	ほとんど	ほめる

ほん(本)	-ほん/ほん/ほん	ほんとう
<ま>		
まいる	まがる	まえ
まじめ	~ます	まず
まずい	[また]	まだ
まち	まつ(待)	まっすぐ
まつり	~まで	まど
まにあう	まもる	まるい
まわり		
<み>		
みえる	みがく	みぎ
みじかい	みず	みせ
みせる	~みたいだ	みち
みどり	[みな/みんな]	みなみ
みみ	みやげ	みる
<む>		
むかし	みずかしい	むすこ
むすぶ	むすめ	むね
むら		
<め>		
め(目)	め(芽)	めがね
めずらしい		
<も>		
~も	もう	もうす
もし	もつ	もっと
もどる	もの(物)	もらう
もんだい		
<や>		
-や(屋)	~や	やく(焼)
やくそく	やさい	やさしい(優)
やさしい<易>	やすい(安)	やすむ
やはり/やっぱり	やま	やめる
やる	やわらかな	
<ゆ>		
ゆうびんきょく	ゆうべ	ゆうめい
ゆき(雪)	ゆしゅつ	ゆっくり
ゆにゆう	ゆび	ゆるす

<よ>		
~よ	ようじ(用事)	ようす
~ようだ	ようぶく	よく
よこ	よぶ	よむ
より	よる(夜)	よろこぶ
よろしい/よろしく		
<ら>		
らいねん	ラジオ	ラップ
~られる/れる		
<り>		
りっぱ	りょうしん	りょうり
りょこう		
<る>		
るす(留守)		
<れ>		
れきし	れんしゅう	
<ろ>		
ろうか	ロック	
<わ>		
ワープロ	わかい	わかる
わすれる	わたし/わたくし	わたる
わらう	わる<割>	わるい
<を>		
~を		

表記用漢字〔別表Ⅲ〕

「日本語、」の教材の表記に使用できる漢字を次の733字以内に限る。表記用漢字すべてを使う必要はなく、表記上の必要に応じて学習段階と学習分量を考慮して使う文字数を調整し、学習量が過多にならないように留意する。表記上の理由でこの表に提示されていない漢字をやむを得ず使わなければならない場合は、日本語の常用漢字の範囲内とする。ただし、固有名詞に使われる漢字は、例外とし、固有名詞の表記は、「国語の仮名表記表」に従う。

〔あ〕

愛 悪 安 案 暗

〔い〕

以 衣 位 囲 医 委 胃 移 意 育 一
引 印 員 院 飲

〔う〕

右 羽 雨 運 雲

〔え〕

永 泳 英 栄 営 衛 駅 円 園 遠 塩

〔お〕

王 央 応 桜 横 屋 億 音 恩 温

〔か〕

下 化 火 加 仮 何 花 価 果 科 夏
家 荷 貨 過 歌 課 画 芽 介 回 会
改 海 界 械 絵 開 階 貝 外 害 街
各 角 覚 学 楽 活 株 刊 甘 完 官
寒 間 感 漢 管 関 館 観 丸 岸 岩
眼 顔 願

〔き〕

気 希 汽 季 紀 記 起 帰 喜 期 旗
器 機 技 議 客 九 弓 旧 休 求 究
泣 急 級 宮 救 球 給 牛 去 居 拳
許 魚 御 漁 共 京 供 協 強 教 橋

鏡	競	業	曲	局	極	玉	均	近	金	銀
[<]										
区	句	苦	具	空	君	訓	軍	郡		
[け]										
兄	形	怪	係	型	計	経	景	軽	芸	欠
血	決	結	月	犬	件	見	建	研	梟	健
験	元	玄	言	原	現					
[こ]										
戸	古	固	個	庫	湖	五	午	後	語	口
工	公	功	広	交	光	向	好	考	行	孝
厚	候	校	航	高	康	黄	港	号	合	告
谷	国	黒	今	根	婚					
[さ]										
左	差	座	才	再	祭	細	菜	最	際	在
材	財	罪	作	昨	冊	札	刷	殺	察	雜
皿	三	山	参	産	散	算				
[し]										
士	子	支	止	氏	仕	史	司	四	市	矢
死	糸	私	使	始	姉	思	指	師	紙	齒
試	詩	資	字	寺	次	耳	自	児	事	治
持	時	辞	式	七	失	室	質	実	写	社
車	者	借	若	弱	手	主	守	取	首	酒
種	受	授	収	州	周	宗	拾	秋	終	習
週	集	十	住	重	祝	宿	出	春	順	初
所	書	暑	女	助	小	少	招	松	消	笑
唱	商	章	紹	勝	焼	象	照	賞	上	乘
城	場	色	食	植	心	申	臣	信	神	真
深	進	森	新	親	人					
[す]										
函	水	数								

[せ]

世	正	生	成	西	声	制	性	青	政	星
省	清	晴	静	整	税	夕	赤	昔	席	積
切	折	雪	節	説	舌	千	川	先	浅	船
戦	線	選	全	前	然					

[そ]

祖	組	早	争	走	相	草	送	倉	巢	窓
想	増	束	足	息	速	側	測	族	属	卒
存	村	孫								

[た]

他	多	打	太	对	体	待	帶	貸	隊	大
代	台	第	題	宅	達	単	炭	短	団	男
段	談									

[ち]

地	池	知	置	竹	茶	着	巾	仲	虫	注
昼	柱	貯	丁	庁	兆	町	長	帳	鳥	朝
腸	調	直	賃							

[つ]

追 通

[て]

低	第	定	底	庭	停	的	笛	鉄	天	典
店	点	転	田	伝	電					

[と]

徒	都	土	努	度	刀	冬	灯	当	投	豆
東	島	湯	登	答	等	統	頭	同	洞	動
堂	童	道	働	特	得	毒	読	届		

[な]

内 南

[に]

二 肉 日 入

[ね]

熱 年 念

[の]	納	農									
[は]	波	馬	配	敗	売	倍	梅	買	白	泊	博
	薄	麦	箱	畑	八	発	反	半	犯	判	坂
	板	班	飯	番							
[ひ]	比	皮	彼	非	飛	悲	費	美	鼻	必	筆
	百	氷	表	票	評	標	秒	病	猫	品	貧
[ふ]	不	夫	父	付	府	負	富	部	風	服	副
	仏	物	粉	分	文	聞					
[へ]	平	兵	米	別	辺	返	変	便	勉		
[ほ]	歩	保	母	方	包	奉	宝	放	法	訪	望
	買	北	木	牧	本						
[ま]	毎	妹	枚	末	万						
[み]	味	脈	民								
[む]	務	無									
[め]	名	命	明	鳴	面						
[も]	毛	目	門	問							
[や]	夜	野	役	約	訳	薬					
[ゆ]	由	油	輸	友	有	勇	郵	遊			

[よ]

予 幼 用 羊 洋 要 容 葉 陽 様 養
曜 浴

[ら]

来 落

[り]

利 里 理 陸 立 律 流 留 旅 両 良
料 量 領 力 緑 林 輪

[る]

類

[れ]

令 礼 冷 例 歴 列 連 練

[ろ]

路 老 勞 郎 六 録 論

[わ]

和 話